

モラルサイエンス研究会（令和元年 5 月 22 日）発表要旨

## 国際政治と道徳、拉致問題を中心に

歴史研究室  
教授 西岡 力

本発表では、国際政治における道徳の役割について考察し、その上で日本外交の最重要課題の一つである北朝鮮による日本人拉致問題において道徳がいかに作用してきたのかを体験的にまとめた。

私は何人かの学者らと共に第 1 次安倍晋三政権発足直前に安倍氏への政策アドバイスとして、「価値観外交」を外交の基調に据えることを提案した。安倍政権はそれを採用した。

米国の保守陣営は価値観外交に立つレーガニストとバランスオブパワーを重視する現実主義派に 2 分される。前者と連携して、中国共産党の 1 党独裁と北朝鮮の世襲独裁に対抗する価値観を基礎にする日米同盟を強化すべきと考えたからだ。

拉致問題は、愛し合う家族を無理やり引き離すことは「悪」という価値判断に立ってこそ解決へ迎える。そのことを米国に訴えて拉致解決のための日米連携を強化できた。研究においても、課題設定と結論への評価という場面では価値中立はあり得ない。道徳が問われる。